

第163回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成24年11月)

2012.11.29

株式会社 岩手朝日テレビ

第163回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成 24年 11月29日 (木) 11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ 3階 会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 5名

| | |
|------|---------|
| 委員 長 | 村 田 久 |
| 委員 | 小 松 豊 |
| 委員 | そのだ つくし |
| 委員 | 田 口 幸 雄 |
| 委員 | 大見山 俊雄 |
| 委員 | 小田島 利 昭 |

欠席委員数 2名

| | |
|----|-----------|
| 委員 | 小 松 豊 |
| 委員 | 小 島 山 さゆり |

会社側出席者名

| | |
|--------------------|---------|
| 代表取締役社長 | 富 永 健 治 |
| 取締役報道担当 | 小 椋 和 雄 |
| 取締役 | 長 生 正 広 |
| 報道制作局部長 | 伊 波 伴 准 |
| 番組ディレクター | 松 舘 守 |
| 編成業務局長兼放送番組審議会事務局長 | 柏 葉 智 |
| 番組審議会事務局 | 佐 野 尚 |

4. 議 題

(1) 合評番組

ほっとネットとうほく「発信！もち文化～M(もち)1グランプリ奮闘記～」

放送日時 11月23日(金)午前10時30分～11時25分

(2) 12月単発番組及び11月の視聴率について

(3) 次回審議会

開催日：平成25年 1月30日(金)午後4時～

ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

合評課題：「ふるさとCM大賞2012 in IWATE」

放送日時：12月29日(金)10時30分～11時25分

5. 概 要

- * 柏葉事務局長より12月の単発番組と11月の視聴率の内容が発表された。
- * 合評課題は11月23日放送の6県ネット番組「発信！もち文化～M(もち)1グランプリ奮闘記～」
- * 何回も取材を重ねたのが分かるほど丁寧に作られていた。実行委員らの家族まで取材することでドキュメンタリー的内容になり良かった。
- * 番組タイトルに「もち文化」と入っているが内容は創作料理が多かったため、地元一関の人たちにとっては物足りなさを感じるかもしれない。
- * もちを町おこしの材料にし、グランプリを企画した実行委員らの奮闘ぶりが良く描かれていた反面、もちの歴史や伝統についての説明が少なく内容に深みが感じられなかった。
- * もち文化を広めるイベントは過去にもあったが長続きしなかった。今回のイベントが尻すぼみに終わることないように願うとともに、取材も継続してほしい。

6. 議事の内容

柏葉事務局長 それでは、只今より、第163回岩手朝日テレビ放送番組審議会を始めます。それでは村田先生、議事をよろしく願います。

村田委員長 12月は番審がございませんので、今回の番審が今年最後になります。それでは富永社長、一言願います。

富永社長 本日もお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今年1年間お世話になりました。来年もよろしく願います。

後程詳しい説明がありますが、視聴率の話させていただきます。現在キー局であるテレビ朝日の視聴率は好調を維持していて、昨年、7年連続3冠だったフジテレビを追い抜いた日本テレビと今トップ争いをしている状況です。今年フジテレビは日本テレビに3冠を奪われたのち、凋落の勢いが止まらず、日本テレビやテレビ朝日の後塵を拝する形で視聴率争いからは完全に脱落しました。

11月18日時点での日本テレビに対するテレビ朝日の視聴率は、全日-0.4%、ゴールデン+0.1%、プライム-0.3%と、0.4%以下の戦いになっています。

一方岩手朝日テレビは、キー局ほどの状況にはなっていませんが、昨年全日・ゴールデン・プライムで2位のめんこいテレビと争っています。昨年のめんこいテレビとの視聴率の差は、全日-2.0%、ゴールデン-2.5%、プライム-1.8%でしたが、今年11月の時点では全日-0.5%、ゴールデン-0.4%、プライムが同じと最大でも0.5%の差にまで縮まっています。

来年度はめんこいテレビを抜いて、全日・ゴールデン・プライムで2位になれるよう努力していきます。

村田委員長 何か質問や意見はございますか？なければ12月単発番組及び11月の視聴率について願います。

柏葉事務局長 それでは12月の単発番組を説明します。2日に午後0時から福岡国際マラソン、7日から3日間フィギュアスケートGPファイナル、15日午後9時からテレに朝日開局55周

年記念番組 松本清張没後20年ドラマスペシャル「10万
分の1の偶然」を放送します。このドラマは1980年3月
から1981年2月まで週刊文春で連載されていて、文春の
傑作ミステリーベスト10の年間5位になった作品です。日
本屈指のミステリー作家、松本清張の後期の傑作と名高いこ
の作品、田村正和主演でお送りします。

つづいて単発制作番組4作品をご紹介します。26日午後
3時59分からは「IATスーパー」チャンネル年末SP」、
今年1年の岩手のニュース・出来事をテーマ別に振り返りま
す。29日午前9時30分からは「いいこと！年末SP」、年
末年始のお得な情報の紹介など今年最後の放送となります。
29日午後0時から「日本の風景遺産 没後100年啄木の
風景」、2012年は啄木が26才の短い生涯を閉じてから
100年目に当たります。啄木作品の根底にある故郷盛岡、
歌の原点を案内人の加藤千洋さんが訪ねます。29日午後4
時30分から「ふるさとCM大賞2012 in IWATE」、昨年
は震災の影響で開催を見送りましたが、今年はアイーナで今
月18日に2年ぶりに行われ、県内27市町村が参加した審
査会の模様をお送りします。

次に11月の視聴率について説明します。全日7.7%、
ゴールデン12.8%、プライム12.4%、プライム2は7.
3%になりました。全日・ゴールデンは3位、プライムは2
位、プライム2は43カ月連続1位を継続中です。全日視聴
率は2~4位がそれぞれ0.1%差と拮抗しています。11月
はワールドカップアジア最終予選オマーンVS日本が21.
7%と高視聴率、野球侍ジャパン日本VSキューバや先月ス
タートしたドラマ相棒11やドクターXも高視聴率で推移し
たおかげでゴールデンとプライムは民放2位を獲得するこ
とが出来ました。

また10月から番組の枠組みを変更し、平日午後1時55
分からの「傑作ワイド劇場」が7.3%と好調を維持、さらに
今月は「相棒」を平日午後4時から編成することで、平均1
2.7%となり全日視聴率アップに貢献しました。

他局ではめんこいテレビが昨年11月に比べ、ゴールデン
-6.4%、プライム-5.3%と落しました。昨年はワー
ルドカップバレー女子が視聴率週間に2試合編成され、軒並
み20~30%だったので、今年はそれがなく大きく落ち
込んだと思われます。12月の単発番組と11月の視聴率に
ついては以上です。

村田委員長

何か質問・意見などございませんでしょうか。それでは合評課題への意見をお願いします。

大見山委員

大変楽しく拝見しました。良かった点はなぜ一関でもちなのかといったもち文化の最初の説明が丁寧になされていて、非常に分かりやすかったです。さらに説明に深みを増すためにもち御膳の体験シーンはもち文化を理解するうえでよいシーンでした。

一方で最初にあった一関市長が登場する場面ですが、どうも演技くさく最初からシナリオが決まっているようでした。そのやらせ感が最後まで頭の中に残り、全体的にどこかで見たことがあるようなイメージになってしまったのが残念でした。

また、食に携わる立場として気になったのは、新しい商品を開発する上で深みのないナレーションが見受けられました。寿司屋でもちを稲荷ずしに入れるシーンのコメントで「もち は米だから寿司に替えてもあわないはずがない」と言っていました。確かにもちと酢飯は米だから似たようなものだが、もっと工夫した部分があると思います。あわないはずがないからやったというのであれば、安易なコメントに感じます。

それと、平泉のシーンでフランクフルトのカレー粉を振りかける場面で「金色堂にひっかけてカレー粉に決めた」と言っていました。本当にそれだけの理由なのか。食を開発した人からすると、カレー粉に決めた理由がもっとあるのでは。

最初の一言で片づけられたのが、深みがなく感じました。

また、市長が出てもちの話をしているときにそばっち（岩手観光キャラクター）がいましたが、あそこはもちではないか。

さらにそばっちの名札がやたら目立った気がしました。

小田島委員

長年番審の委員をやっていますが、ことのほか素晴らしい作品でした。一番よかったのは何度も取材を重ねているのが分かる内容だったこと。最近では1回か2回の取材で番組を作っているのが分かる時があるが、今回の作品は過去の映像、資料や解説の取り入れていて分かりやすく、担当者の苦勞が伺えました。今までのもち番組だと生産者が出演して、生産の苦勞などを語っていましたが、生産者側からするとどうしてもやらせに感じてしまいます。今回の作品は一貫して実行

委員の方々を中心に取材し、余計なものがない内容になっていてとてもすっきりした印象を受けました。言い過ぎかもしれませんがドキュメンタリー的な感じもしました。

とりわけいい印象だったのは終盤に家族が出てきて、それが実行委員長で私も知っている人でしたが、かなり昔から世嬉の一に勤めながらもち文化を広める活動していました。彼の奥さんからすると仕事ばかりで子供の面倒を見てくれないと心配しているシーンがドキュメンタリーっぽく良かったです。

出店する店で商品開発とかに参加する店がちらほらと出てきて、店の紹介もしながら、ちょっとグルメ番組っぽくもあり、商品開発だけでなくその店に行ってみたいといった、そんな感じも出ていました。今までだとその辺がごちゃつと出てきて、さも紹介番組のようになるが今回はそういうことが感じられなかったです。

もちサミットの当日イベントの部分が少なく、流した感じで、私にとっては好印象でした。ナレーションもあって良かったです。

そのだ委員

市長室のやらせ感とそばっちが気になってしまい、いなくても良かったかなと。実行委員一人ひとりの役割や奮闘ぶりがきちんと組み込まれていて、頑張っている姿がわかりやすく良かったのが第一印象した。ただまとまり過ぎていて面白みがなかった気もします。全体的に見てそう思いました。

もちサミットの大成功という内容だが、ライバルの紫波町に結局負けてしまったことも、ドラマ性があって面白かったです。逆にあからさまに悔しさを出しても良かったかなと。みんな優しすぎる印象がありました。紫波町のもちハムカツは確かにおいしいが、もうちょっと実行委員が負けたことを悔しがってほしかった。最後のシーンで「はい、もっち」というよりも「チキショー」と言う方が良かったかもしれません。もち文化やもち御膳の説明も詳しくて私の住んでいる磐石町とも違うのでとても勉強になりました。東北以外の人でも町おこししたい人は見た方がいいかなと思いました。

田口委員

オープニングはさわりの部分もテンポが良くインパクトもあり期待が高まりました。もち本膳の作法はなかなか興味深かったです。私も田舎育ちだが、最初はあるもちから食べるとか時計回りに食べるとか、最後にみそを添え、たくわんで食べるのは私の田舎にはない風習でした。

M(もち) 1 グランプリ奮闘記という題名からかもしれないが、実行委員の裏の準備とかの映像が長かった。最初のテンポの良さに比べ、いろいろなことが多すぎた感じがしました。

全体的には伝統の部分や新しいもちの食べ方もあったり、食べてみたいと思わせる新しいもちの話とか楽しい番組でした。反面、もう少し伝統的なもちの食べ方を説明してほしかったことと、もちサミットの部分をもう少し見せてほしかったです。

村田委員長

概ね好評のようで意外でしたが。私は一関出身なのでコメントしづらいです。全部知り合いが出ているので。佐藤さんは世嬉の一の息子だが両親とも付き合いがあるので悪くは言えないな。

この番組はもちの歴史とか風習、人の関わり合いを描いたものであって、もち文化を描いたものではないと思います。もちを地域おこしの材料にしてなんとか客を呼ぼうという町の有志らによるドラマだと。その点から見ればグランプリを立ち上げて苦勞の過程を描いたところは理解が出来ます。地域に残る伝統やもち御膳の作法などは珍しくもなく、もち文化を広く紹介する観点からすると物足りなさを感じます。できれば臼や杵でもちをついたり、お婆さんがもちのやり取りするシーンとか、もちをせいろで蒸かすようなそういう風景を入れても良かったのではないかな。

もちには昔ながらのメニューが多くあります。ただここでは創作メニューはあるが、昔のメニューが出てこない。昔ながらのえびもちとか、えびはどこから採ってくるのかとか、そういう歴史というものがある。それらが一切見えてこない。もちの材料調達から料理の方法までとかを番組に盛り込むとか。そういうことがもち文化を伝えることで意義があるのではないかな。私はこの番組には物足りなさを感じます。目先の

利益を求めするため、何とか客を呼んで町を活性化しようとする思惑が見えすぎ。だから市長が出たりするということか。もちというものはもともと一般的なものではないです。よって創作料理は新鮮かもしれませんが。しかし古い人はもち文化を残しておきたいと思っています。もち文化というのは一関の人にとって生活に密着したものだということを知らせることによって、逆にグランプリにつながるとしても良かった。私の物足りなさはそこにあります。

サミットの当日、私も行こうと思いましたが行けませんでした。友人らに聞いたらほとんどが一関近辺の人ばかりだっ

たと。県外の方は少なかったようでした。県外の客のインタがほしかったです。もちの創作料理がどうだとか、古い町はどうなのかといったような意見が出れば面白かったです。県外の方が何人くらい来ていてどういう評価だったのか聞いてみたかったです。

このグランプリが尻すぼみにならないように祈るのが私の気持ち。過去にもこのような催しがあされたが続きませんでした。若い人たちが実行委員を作って取り組んだところはいいと思うが、その原点にあるのはもち文化という歴史が古いもちです。創作料理メニューばかり取り上げないで会場に古くから伝わるもちを紹介するコーナーを設けたりするのが催しを長続きさせる一つの秘訣かなと。ただ若い人の頑張りを買いたいがこれらを映像にするのは難しい。もちを取材するには春から一年くらいやらないと。一関在住の人間からするとそう思います。

その他何か言い足りないところはありますか？

大見山委員

私も言っぱなしでしたが、番組を制作する上でこだわったところはどこですか？

松館D

基本的にあのようにしてほしいとか、言ったことはないです。私はドキュメンタリーのつもりで撮っていました。私は町おこしを伝えたく、そのコンセプトで作りました。

小田島委員

実行委員の人たちが自然体だった。あれは何回ほど取材したのですか？

松館D

10数回ほど取材しました。

小田島委員

その間にテレビ取材に慣れてきて、それが自然な感じに見えたのでしょうか。

大見山委員

逆に実行委員の人たちにまかせたから、彼らなりに演じてしまったのかもしれない。

村田委員長

もち御膳とかは地域によって違います。一関は伊達藩で南部藩ではない。伊達藩がもち文化。伊達藩から入ってきたから海老もちでも何種類もある。海老の味付けも違うし巖美町と藤沢町でも違うので表現が難しいかも。今までもちイベントが失敗したのはもち文化を前面に出しすぎたからという人もいる。今回は創作メニューだからいいという意見もある。

そういう面で今回のイベントは一石を投じたかなと。2回目の開催を見たいです。

田口委員 タイトルに「文化」が入ったため、いろいろな意見が出たのかもしれない。なければ尚よかったのかも。

村田委員長 以上ですが何かご意見はありますか？

伊波
報道制作部長

今回の番組は“ほっとネット東北”という枠組みで、県内だけでなく東北6県で放送されます。それを前提に番組の立案・計画がなされ、取材・編集し放送しました。他県で放送されることを意識したため、県内のみで放送する番組とは多少意味合いが違います。そういう意味で“発信もち文化”というフレーズは番組を印象付ける一定の役割はあったと思います。今後どうやってこのイベントを追いかけていくのかにかかってくると思うので、前向きに取り組んでいきたい。今回ご指摘頂いた部分は今後の番組作りに役立てたいです。

松館D

今回の取材は町おこしを伝えたいという気持ちで動き出しました。実行委員の人たちの動きを追いましたが会議ばかりで、額に汗して何かをする映像がほとんどない。どうすれば番組になるのかと不安になりました。本当は実行委員の人たちが困難にぶつかってそれをどう克服していくといったドラマがたくさんあるのかと思っていました。その分、出店者が料理を作るシーンなどを入れることで番組の形になりました。

村田委員長 ありがとうございました。ほかには何かないでしょうか？なければ次回の開催についてお願いします。

柏葉事務局長

次回の開催は来年の1月30日、メトロポリタン盛岡ニューウイングで開催します。合評課題は先ほどの単発番組の紹介でお知らせしました12月29日午前10時30分から放送される「ふるさとCM大賞2012 in I W A T E」です。ご覧いただき貴重な意見をいただきたいと思います。以上です。

村田委員長

その他何かございませんか？なければこれで終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置
ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。
8. 審議機関の答申または意見の概要の公表
朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。
9. その他の参考事項
特になし
10. 配布資料
 - ◎ 12月単発番組編成予定表
 - ◎ 11月岩手地区視聴率